

緑の地球

GREEN

EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 会員総会のお知らせ… P 2
- 木を植える人の勇気に感動 P 3
- 春の黄土高原ワーキングツアー P 4~5
- 新連載『植物を育てる』 P 6



“九江龍母”の伝説がのこる広靈県水神堂。ここでも数年来わき水の量が減少している

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています!

1999・5

67

緑の地球ネットワーク 第5回会員総会のお知らせ

全国で次つぎとNPO法人の認証が出るなか、大阪府でも4月14日に昨年12月に申請した12団体に対する認証が出来ました。GENが申請したのは2月はじめなので、認証までにはもう少しかかりますが、会員総会には間に合うかなというところです。

GENのNPO法人化にともない、ナショナルトラスト・チコロナイも二風谷現地に新しい組織をつくってさらな

る運動の発展をめざすことになります。そこで今回の第5回会員総会では、貝澤耕一さんに『アイヌ民族にとってのチコロナイ私たちの沢』と題して講演していただきます。

総会自体も、会員の方に楽しく参加していただけるように、スライドを利用するなど工夫しますので、ぜひたくさんの方のご参加をお願いいたします。

会員のみなさんには、あらためて詳しいご案内をお送りします。会員以外の方も、傍聴していただくことができ

ます。傍聴ご希望の方は、あらかじめGEN事務所までご連絡ください。

また、終了後に懇親会を持ちます。総会のご案内といっしょに詳細をお知らせしますので、会員以外で参加ご希望の方はGEN事務所までお早めにご連絡ください。

【緑の地球ネットワーク第5回会員総会】

- 日時：6月26日（土）13時15分～16時45分
- 場所：ドーンセンター（大阪府立女性総合センター、TEL. 06-6910-8500、京阪・地下鉄谷町線「天満橋」駅1番出口から東へ徒歩5分）

緑化NGOリーダー養成講座開講！ ～聴講者募集～

前号の会報でも簡単に紹介しましたが、緑化NGOリーダー養成講座の夏までの計画が決まりました。黄土高原におけるGENの8年の緑化協力のなかで蓄積されたノウハウが公開されるこの機会をお見のがしく。今回はパイロット企画として、受講料も資料代のみというチャンスです（ワーキングツアーより実習は、別途費用が必要）。

- 費用：聴講者…GEN会員は各回500円（資料代）。非会員は各回1,000円（参加費+資料代）。実習は別途。
- 定員はありません。
- 日程：（変更になる場合があります）

○第2回 “緑化はなぜ必要か”

5月29日（土）15～17時

講師：上田 信（立教大学教授・GEN世話人）

○第3回 “自然環境を知る（仮）”

6月19日（土）15～17時

講師：小川房人（GEN顧問・元大阪市立大学付属植物園長）

○第4回 “NGOとは何か”

7月3日（土）15～17時

講師：高見邦雄（GEN事務局長）

※第1回“導入”は終了しました。

※以降、8月＝植生調査実習、9月＝霊丘植物園の植物、10月＝緑化技術－菌根菌－、11月＝緑化技術－混植－、12月＝歴史を知る、2000年1月＝村を知る、2月＝リーダーの仕事、3月＝ワーキングツアーオーを予定。

- 場所：5/29・6/19は立教大学池袋キャンパス5号館1階会議室（当日、会場の電話03-3985-2449）
- ★講座のあと、関東ブランチのミーティングを1時間持つ予定です。
- 問合せ、申込み
上田 信（FAX. 042-323-5774、e-mail gfa06526@nifty.ne.jp）

BOOK BOOK BOOK 出版のご案内

『森と緑の中国史－エコロジカル・ヒストリーの試み』上田信著／岩波書店／価格2,800円（税別）

本紙連載の『緑の中国〈歴史篇〉』や、GEN発行の『黄砂の村をゆく』の内容に、文献を読み込んでえられた歴史的考察や留学をふくむ中国各地訪問の体験をまじえた、上田信さんの“時空をめぐる中国森林の旅”第1歩『森と緑の中国史』が出版されました。中国長江流域、黄土高原、東南山地をカバーした内容ですが、中国の森をめぐる歴史と生活の旅はこれからまだまだ有機的にひろがっていきそうです。

『食料と地球環境』JAグループ環境推進協議会編／家の光協会／価格1,400円（税別）

JAグループの「レインボーキャンペーン」を活用して1997・98年度に開かれたセミナーの講演録です。GEN事務局長の高見さんや、宇沢弘文さん、気候ネット

ワークの浅岡美恵さんら8人の講演を収録。地球温暖化、異常気象、農業、食糧問題、NGO活動などの分野で研究・活動しておられる方がたの現場からの率直な意見を読むことができます。

GEN事務所にもありますので、購入ご希望の方はご連絡ください。

『二風谷ダム裁判の記録－アイヌ民族トン叛乱』萱野茂・田中宏編集代表／三省堂／価格10,000円（送料込み）

建設省の二風谷ダム建設事業の認定とそれに基づく収用裁決は「違法」との判断が下された二風谷ダム訴訟の記録を、貝澤耕一さんと萱野茂さんが自費出版されました。裁判の経過、判決の意義と評価、訴状・判決文、意見陳述書などがまとめられています。

購入申し込みはFAXで貝澤耕一さんまで（01457-2-3991）大阪のチコロナイ学習会でも取り扱います（手渡しで9,500円）。ご希望の方は武田繁典までご連絡ください（連絡先は7ページ）。

助成が決まりました

●（財）国際開発救援財団

中国黄土高原における緑化協力に対して2,384,000円の助成が決まりました。

●経団連自然保護基金

中国山西省の黄土高原における緑化活動に対して200万円の助成が決定しました。

●（財）国際コミュニケーション基金

自然植物園への有用植物導入に対して90万円の助成が決まりました。いずれも大切に使わせていただきます。

木を植える人の勇気に感動

～わたしたちに何ができるか～

北村 裕明（サントリー労働組合）

サントリー労働組合では、組合員の自己啓発促進、組織としてのボランティア活動の推進の観点から「中国黄土高原ワーキングセミナー」を開催しています。昨年9月に引きつづき第2回目のワーキングセミナーを3月31日～4月6日の行程で実施しました。

このセミナーの第1の目的は、もちろんGENが展開されている中国の黄土高原での緑化活動への協力ですが、ボランティア活動としての植林活動だけではなく、現地の小学校を訪問し子どもたちと交流会をおこなったり、村の人たちや大同市青年連合会のみなさんといっしょに食事をしたり、また、日中の歴史を垣間見ることができる「万人坑」見学などもあり、普段はなかなか体験できないことばかりを盛りだくさんに詰め込んだセミナーとすることができました。また、私自身初めての中国ということもあり、驚きと感動の連続でした。

とにかく初めて見た黄土高原は、見渡す限り黄砂に覆われ、ただただ自然の偉大さに驚くばかりでしたが、その自然を相手に植林している人間の勇気に感動させられました。また、一緒に植林をおこなった現地の子どもたちの純粋な笑顔は心打たれるものがあり、この子どもたちにわれわれの手で何かできることはないかと強く考えさせられました。

今回訪れた中国は、最近でこそ観光で訪れる日本人も多くなっていますが、隣国でありながら、また、歴史的なつながりが深いにも関わらず、まだまだ精神的に遠い国のひとつです。しかし、私にとっては、今回のセミナーで多くの中国の方がたと出会い交流ができたことで、少しですがその距離が近づいたような気がします。自然について考え、歴史を振り返り、そして人との交流をおこなうといったごく当たり前のようで普段できないことができたこと



が最大の収穫であったと思っています。われわれが現地にお邪魔して植えることのできた苗の数はほんのわずかなものであり、とても「お役に立てた」というレベルのものではありませんが、このセミナーを主催する立場として、「今後ともこのセミナーを継続させていくこと」「一人でも多くの方に参加していただすこと」でお手伝いをしていければと感じています。

最後になりましたが、この場をお借りして、中国でお世話になった方がた、GENの方がたに感謝の意を表します。

中国・黄土高原植樹 ワーキングツアー

昨年は広靈県で井戸の通水式に参加した農協観光のツアーですが、今年は協力地域北部の陽高県、大同市新榮区での作業・交流を予定しています。内蒙自治区に接し、万里の長城が残る地域です。また、大同希望学校での子どもたちとの交流も予定されています。南部の靈丘自然植物園がメインのGENのツアーとはまた違った体験ができそうです。

●日程：7月22日（木）～28日（水）
7日間

●費用：一般＝180,00円、学生＝
170,00円（GEN年会費を含む）

●問合せ・申込み：（株）農協観光
神田支店（TEL. 03-3251-3145）

※詳細は同封のチラシをご参照ください。

1999 夏 黄土高原ワーキングツアーのご案内

靈丘自然植物園のある上寨鎮南庄村を、今春ワーキングツアーが訪れました。もちろん調査には何度も通いましたが、大勢でおしかけたのは今回がはじめて。それなのにびっくりするほど温かく、親しく迎えてくれて、参加者は大感激でした。

夏のツアーも植物園がメインです。色とりどりの高山植物を楽しみながらの植生調査、植物好きな方は見逃せません。“沙漠に木を植える”イメージとはちょっとちがいますが、病虫害に強い多様性のある森づくりのために、樹種をふやす可能性を追求するのは大切なことです。靈丘自然植物園はその重要な拠点なのです。

大同におけるGENの緑化協力も8年目をむかえ、ようやく将来の姿がか

すかに見えてきたようです。あなたも、未来の森を感じに行きませんか。

●日程：1999年7月29日（木）～8月5日（木）8日間

●費用：一般＝185,00円、学生＝
175,00円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN会費1年分ふくむ）。

※中国国際航空利用、関西国際空港発着。※成田空港ご利用の場合航空運賃の差額分高くなります。
※北京もしくは大同で合流ご希望の方はご相談ください。

●定員：30名（先着順）

●締め切り：6月29日（ただし、定員に達し次第締め切ります。）

●問合せ・申込み：GEN事務所まで

いつか豊かな緑を

～試行錯誤を繰り返しながら～

今春のGENの黄土高原ワーキングツアー（3/25～4/1）は、中学生から70歳まで32名が参加しましたが、50歳代の参加者が多かったのが特徴的でした。恒例となったツアーペリオド中の日誌より、一部をご紹介します。



【3月27日（土）】

▼植樹には苗木、大量の水、スコップ、つるはし、軍手、石が必要品。さらに重要なのは、あの山の急な斜面に登る力、道具を運ぶ力、掘る力、埋める力等の“人間の労働力”。その一部として、大同の緑化を支援するものの1人として、この活動に参加したはずなのに、自分の体力不足にもどかしさを感じる。（中略）でも、今日の体験のおかげで、自然の貴さをまた1歩深く知ることができた。植樹も井戸掘りも成功への道のりは長く、経済的な問題、労働力の問題、技術上の問題等困難は次から次へと起こるけれど、試行錯誤を繰り返しながらも、豊かな緑をつくりあげることができると願うばかりだ。（平井優美・留学生）

【3月28日（日）】

▼豪華な昼食をごちそうになった。特に、キビ団子と、あずきアワのかゆは、とてもおいしい。庭では生まれたばかりの子やぎやニワトリが走り回っている。一見するとのどかな風景であるが、実際に生活している人びとの苦労は、シワを見るとよく分かる。周囲の山々を見れば、岩と草ばかりの黄色い山々。ここ3年来、水が少ないと言っていたのが気がかりだったが、小学校でハンカチ落としをしたときのあの子どもたちの笑顔と歌声のなかに、将来の希望が少し見えたような気がした。教室の奥すみにポツリと座っていた体の悪い少年。がんばってね。なぜか、一番印

象に残った。（富樫智・団体職員）

▼2年前にかれてしまった井戸、干上がっているため池を見る。村のことばに「油を借りて返さないことがあるから水を借りたら、絶対に返さなければならない」というのがあるそう。遠くの村から遠慮しながら汲んできた水を大切に大切に使っている村。お風呂なんてとんでもない。昨夜、トイレの水が出ないと騒ぎ、お湯が出ないと公衆浴場に行く、そんな私たちのあたり前の生活からは遠く離れた生活があること。自分の生活を見直すとともに、村の生活が早く改善されてほしい。（藤井由美・幼稚園教員）

【3月29日（月）】

▼5年前に植えたというアンズ畠のなかを通り抜け、“グランドキャニオン大同版”みたいなすごい崖っぷち歩いてたどりつく。説明を聞いたところ、アンズの木の幹は、皮を一周ぐるっと野ウサギなどに食べられてしまうと、おしまいということだ。人間は、石炭などを混ぜた何やら“秘薬”的なものを、50cmくらいまで塗ったりするのだけれど、それでも野ウサギは頑張って、背のびして、樹皮をかじるのだ。歩いていると、ウサギがかじった跡をところどころ発見できる。でも、そんななかアンズさん、がんばってのびていらっしゃる。けっこう感動的。すごく小さな苗から、ここまでになつたんだよね。（戸田綾子・留学生）

【3月30日（火）】

▼そして今訪れている大同礦務局展覧館（旧鉱山の万人坑）では、中国人を酷使し、なんと石炭1000トンあたり4人の死者をだし、194年伝染病流行時には感染者、不感染者をとわざ焼き殺し、ここ万人坑に白骨となつてしまにいたっている。（中略）先日も植林をおこなった靈丘県南庄村の隣村劉



地球環境林センターでの作業

庄村の老人が私に「うちの村は194年（？）3月1日、日本軍により243人の死者を出した。でもこれは過去のことだ」と語った。これをどう受けとめるべきか？ 事実を知ること、正確な歴史認識、これだけでも今回のツアーは私にとって意味があった。（二宮雅徳・会社員）

【3月31日（水）】

▼今回の旅はまさにおどろきの連続でした。都市部と農村部の全く違う世界のようなギャップや、農村のましさ。そしてなによりも、いま自分が大学で学んでいることと、現状にある厳しさとの根本的な誤りを知った。私は緑化するということに、そこに住む人びとの概念や習慣、歴史的な背景というものが強く影響しているということを全く考えていなかった。なぜ考えなかつたのか不思議に思うほどに頭になかったのだ。考えてみればまさにそこに緑がなくなってしまったことや、なくなった後、ここまで浸食が進むまで緑化できず、また、他からの協力があってもなかなかうまくいかない原因があつたのではないか。それらを少しでも多く理解していかなければこの活動は成功することはできないよう思う。私がこれまで考えていたほど、緑化すると言うことは甘くはなく、甘くないどころか、厳しくて厳しくて、何年も何十年もかけてやっと土台を築くことができるものである、というものようだ。今回はそれを見事につきつけられた。それを認識できたというだけでも大変に大きな勉強になったと思う。大学で勉強するのはある程度の理論と技術だけであって、その後は自分の目を見て、耳で聞いて、肌で感じて、頭で考えていかなければならぬのだ。（三戸久佳・大学生）



乾いて生きる

～水と生命があるよろこび～

前号でご紹介した全ジャスコ労組の「中国の子どもたちの心に木を植えるプロジェクト」、まずは春のワーキングツアー（4/9～4/14）の参加者20数人が靈丘県南庄村小学校の起工式に参加されました。9月の開校式も楽しみです。

【4月11日（日）】

▼食事後、村内の小学校を見学。え、これが小学校、というよりただの小屋。窓も明かりもない一室にて授業をしている様子。本当にひどい。大事な初等教育が、こういう状況でおこなわれていることに大変ショックを受けたが、こんな授業さえも、お金が払えないのを受けられない子どもたちが村内にいるときいて、さらにびっくりしました。日本の子どもたちにぜひ、みせてやりたいと思いました。



PM1:30～植物園にて作業。畑を掘る作業に従事。一同、無言で作業をする。するとカミナリ、雨、みぞれが降りだし、一同ずぶぬれ。（中略）食事中、趙さんが、「この年収は1,000元（1元=15円）位だが、北京では月収1,000元～2,000元、多い人で5,000元位だよ」と教えていただく。10倍以上の格差である。（植松泰樹）

▼子どもたちとあやとりをしたり、笑顔やジェスチャーで気持ちが通じ、心をお互いにひらくてるを感じ、うれしかったです。それまでどこかドキドキして、内心大丈夫かなあと心配していました。仲良くなった鄭海栄ちゃんという10才ぐらいの女の子は、お花をくれたり手をつないだりして、すっかり自分の妹のようにいとしくなりました。ただ小学校建設を手伝っただけではなく、そこで学ぶ子どもと仲良くなり、その子の記憶のなかに少しでも私がこ

こに来たことが残ったらうれしいです。

9月に新校舎ができ、少しでも気持ちよく勉強できるようになってほしい。小さなお手伝いでしたが、私のなかにこの村がとても身近に感じられるようになり、子どもたちがのびのびと成長してくれたらいいなと思います。（中略）今日は作業よりも村の人たちの生活や気持ちにふれられたことが何よりも楽しく、うれしかったです。（石井真由子）

【4月12日（月）】

▼参加者の方がたは、じつに素直に中国の方と作業や、生活をやり過ごしているので驚く。日本にいる時に想うには、そうたやすくはないと思っていたのだが、ごくごく自然にこなしている。

しかし、これは特別なことではないのかもしれない。人は、自分が思う以上に“タフ”なのだ。“案ずるより産むが易し”。そして“百聞は一見、一苗”にしかず始まるのである。

インディ・ジョーンズよりアドベンチャー。

カサブランカよりロマンチック。

われわれが一宿一飯の恩義をおぼえた南庄村は、素敵な土地だ。（篠岡潔）

▼農村を見てまわって感じるのは、何より水の稀少さだった。水のないところには作物はおろか草の1本も生えず、家畜も飼えない。家も地面も乾いてヒビ割れ、もう長い間雨がないことが一目でわかる。けれど、そこに水さえあれば、作物が実り、生物が集まり、人びとが笑う。虫が苦手な私も、ここではイモ虫を見ても嬉しい気持ちになる。村に杏の木が芽生えていても、ほんの少し地面をぬらすわき水を見ても、虫の行列を見ても、そこに生命があることが、体がふるえるほど嬉しい。この気持ちを感じることがで

きたことが、私にとっては一番の収穫だったと思う。（竹内優子）

【4月13日（火）】

▼今回最後の訪問先である希望学校では、生徒たちと一緒に校庭に記念植樹をおこなう。親のいない子どもたちの専門校で、「小・中・高」と同じ敷地内で教育している。民間企業等々の資金で運営しているとのこと。生徒数約500名とともに記念植樹を実施。終了後、校庭にて交流。サッカーをしたり、それぞれの学年にあったゲームをしたりして、1時間あまりの交流であった。けがれを知らない清らかにすんだ目。この少年少女たちが次代の中国、そして地球を守ってくれることを期待つつ、学校を後に。（奈良道雄）

【4月14日（水）】

▼このツアーに参加する前から中国の環境の現状をテレビや雑誌で何度か観たり、読んだりする機会はありました。実際目で見てかなり深刻な問題だなあとと思いました。この問題は中国だけの問題ではなく、地球全体の問題だと思います。もっともっといろんな人たちが、環境について考えていかないといけないと思います。気の遠くなるような植樹作業ですが、30年、50年後に緑の山があたり前、そんな黄土高原になってほしいと思います。この気持ちを忘れず、日本に帰国しても、まずは黄土高原植樹活動について、友達やお店の人に話していきたいと思います。（吉岡圭子）



南庄村で新しい小学校の建設に参加。れんがのつなぎにする泥を練るのだが、これが意外と重労働だった

植物を育てる (1)

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)

「世界の森林と日本の森林」は18回で一応終わりとさせていただき、今回から森林をつくるための「植物を育てる」を開始します。

●多様性を尊重して種子をまく

植物育成のスタートは苗木育成のために種子を蒔くか、挿し木をするか、接ぎ木の台木の種子をまくか、取り木が開始されるか、である。挿し木、接ぎ木、取り木はよくそろった苗を育てることができると、これは全て同一遺伝子をもったクローン（栄養系）である。したがって自然を再生するような REFORESTATION（復元造林）には適当ではない。観賞植物などなら話は別だが、自然は環境が変化するから、それに耐える遺伝子をもつ可能性のある個体が混ざっていなければならない。それには複数の親から取った種子をまくのが望ましい。種子は「減数分裂→

受精→発芽」の段階で多様な遺伝子をもつことになっているから、挿し木などの栄養体とは異質である。多様性を尊重する意味からは同一種で、複数の産地の個体からとった複雑な種子が望ましい。

●苗場育苗と鉢育苗

造林用の苗は通常は苗場に短冊型の畦をつくって種子をまいて育てるのであるが、途中で移植して枝根を出させて、活着率の向上を計ったりする。移植を嫌う植物は鉢育苗を行う。また、補植と称して、枯れた株の跡に鉢苗を植えることもおこなわれる。

鉢育苗は手数がかかるので大量におこなうことはあまりないが、ユーカリノキのような移植困難な種類では、いろいろな簡便な鉢が考えられている。ビニール鉢はか

さが低くて便利で、何回も使用できるが、鉢の背丈を自由にできない欠点がある。移植困難な樹種は、枝根が出づに直根が長くのびることが多いので、縦に長い鉢がほしいのである。そこで竹の筒を用いたりすることがある。

種子をまくに当たっては、発芽の特徴をよく知っていなければならない。樹木の種子は発芽に長い期間を要するものが多く、事前に各種の処理を必要とするものが多い。種子の特徴については前月号に記したので、次号では具体的な発芽促進処理方法を述べよう。



アブラマツの苗場（大同市渾源県、1994年撮影）

GREENなれども勉強会第5期 多様性のある森づくり

今回の講師は、GEN代表の立花先生です。夏のワーキングツアーの事前勉強会もかねて、第1回をつぎの日程でおこないます。もちろん、ツアーに参加されない方も大歓迎。第2回『種子の採取、保存と育苗』を9月に、第3回は10月に実習『黄土高原の植物園のための種子あつめ』を予定しています。

■第1回『森林の構造と植生調査』

●日時：7月1日（木）18時30分～20時30分

●場所：大阪市立阿倍野市民学習センター（TEL. 06-6634-7951、JR地下鉄「天王寺」駅／近鉄「阿部野橋」駅より徒歩8分、地下鉄谷町線「阿倍野」駅7番出口、あべのベルタ3F）
●講師：立花吉茂さん（花園大学教授・GEN代表）

●参加費：700円

●問合せ・申込み：GEN事務所まで

GEN-モクモク協力企画

モクモクグリーンギフトのご紹介

モクモク手づくりファームのギフトで、GENの活動に協力してみませんか？

モクモクは、農産物・畜産物の生産から加工・販売までを一貫して取り組んでいる農事組合法人です。今月から、GENの会員さん向けに、ギフトお買い求め金額の10%をGENに活動資金として寄付するグリーンギフトを提案させていただきました。

例えば、モクモクの生ウインナーセット（5,000円／商品番号N-50）モクモク地ビールとハムのセット（5,500円／商品番号MB-55）モクモクのハム詰め合わせ（10,000円／商品番号KA-100）などがあります。その他、モクモクのお米や伊賀牛のセットなどもございますので、ご希望の方はカタログをモクモクまでご請求ください。

ご注文は、お届け先の住所、氏名、

電話番号、ご注文主の住所、電話番号、氏名、ご注文の商品番号、のしの有無、お届け希望日時を記入の上、GEN会員であることを明記して郵便またはファックスで長坂宛にお願いいたします。代金は商品お届け後に請求させていただきますので、郵便振替にてお支払いください。（長坂）

★お問い合わせ・ご注文は

モクモク手づくりファーム通販課
GEN グリーンギフト担当 長坂まで
〒518-1392三重県阿山郡阿山町西
湯舟3609 TEL. 0595-43-222PAX.
0595-43-1861



ナショナルトラスト “チコロナイ” 現状報告

第3期計画は、まだ案内リーフレットができていませんが、1998年12月10日から2年間、募金目標は400万円にする予定です。

また、前号でもお知らせしましたが、第2期までは、『緑の地球ネットワーク・チコロナイ部会』として募金活動をしてきましたが、第3期計画からは、二風谷現地につくる新しい組織『ナショナルトラスト・チコロナイ』として活動を再出発する予定です。

昨年12月10日以降のご寄付は、第3期計画に入れさせていただきました。昨年12月10日から今年4月2日までに43件（43人）328,93円の寄付が寄せられています。現在も受け付け中です。

今後ともよろしくお願ひいたします。

【“チコロナイ” 連絡先】

武田繁典 〒546-0003 大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL/FAX. 06-6704-7720)
貝澤耕一 〒055-0101 北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991)
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構アドバイザー派遣によるアイヌ文化体験行事

じっくり体験 木彫と刺しゅう

アイヌ文化にふれてみよう！

- 日時：6月27日(日)13時～16時30分
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター (TEL. 06-6577-1430)
- 募集：木彫り20人、刺しゅう20人。中学生以上。
- 講師：貝澤耕一、貝澤珠美(北海道沙流郡平取町二風谷)
- 費用：1人 2,000円
- 主催：GEN・チコロナイ部会

- 協賛：大阪市立弁天町市民学習センター
- 参加申込み・問合せ：木彫り、刺しゅうの区別、住所、氏名、電話番号をご記入の上、ハガキまたはFAXで下記へ。先着順。
〒546-0003 大阪市東住吉区今川6-2-6
武田方 GEN・チコロナイ部会 (TEL/FAX. 06-6704-7720)

チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～

第5期第1回

- 日時：5月22日(土) 13時～15時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター (TEL. 06-6577-1430)
- 資料代：第5期(6回) 分で2,000円
- 問合せ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)
- ★『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕、中本ムツ子著白水社) の11のところをやります。
- ★1回だけの飛び入りも歓迎(400円)。

第42回

チコロナイ学習会

- 日時：5月22日(土) 15時～17時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター (TEL. 06-6577-1430)
- 内容：春の二風谷植樹ツアー報告、「ナショナルトラスト・チコロナイの新しい組織」についての相談
- 参加費：100円+カンパ
- 問合せ：武田繁典
- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。



第4回 北海道の自然と文化にふれる 二風谷 子どもキャンプ

二風谷子どもキャンプも4回目になりました。今年から1日ふやして4泊5日になります。

夏の北海道の自然の中で、思いっきり遊び、また、現地の人びとの交流のなかで、アイヌ文化の一端にふれる体験をしてみませんか。現地では、4人のチコロナイのメンバーがお世話をいたします。

- 日時：8月11日13時～15日13時 (千歳空港集合、解散)
- 場所：北海道沙流郡平取町二風谷
- 内容：2泊は民宿、2泊はキャンプ。山歩き、川遊び、農作業体験、自炊、キャンプファイア。アイヌの木彫り、刺しゅう、踊り体験。博物館見学など。
- 費用：集合から解散までの全費用(GEN会報、チコロナイ通信購読料、保険料を含む) 35,000円
- 募集：小学5年生～中学3年生 (小学4年以下は保護者同伴で、高校生以上はスタッフとして参加可) 15人
- 締切り：7月10日
- 問合せ・申込み先：武田繁典(右記)

チコロナイ 現地宿泊研修会

第6回 二風谷ワーキングツアー

二風谷ワーキングツアーも6回目をむかえ、今年から植林された人工林を切って広葉樹の自然林を再生させる作業がはじまりました。

現地でともに汗を流しながら交流し、アイヌ民族の人びとの現状とその文化の一端を知り、体験してみませんか。

- 日時：8月18日15時JR富良野駅集合～23日12時二風谷解散
- 場所：北海道富良野市、沙流郡平取町二風谷
- 内容：富良野近辺の原生林、チコロナイの森、博物館の見学。山、畑仕事。アイヌの木彫り、刺しゅう、踊り体験。チップサンケ参加、交流など。1泊はキャンプ。
- 費用：集合から解散までの全費用5万円(GEN会報、チコロナイ通信購読料、保険料を含む。)
- 募集：15人(ただし全行程に参加できる人。2回目以降の参加者は部分参加も可)
- 締切り：7月17日
- 問合せ・申込み先：武田繁典 (TEL/FAX. 06-6704-7720, e-mail: vyn01123@nifty.ne.jp)



AMネット、ウータン・森と生活を考える会、熱帯林きょうと、アジアボランティアセンター共催
シリーズ『海外の森林破壊と日本』

★第2回 “原生林の伐採と製紙業のためのチップ貿易～オーストラリアからの報告”

【京都会場】

- 日時：5月22日（土）14時～17時
- 場所：京都プロボノセンター（地下鉄「京都市役所前」駅より徒歩5分、寺町二条下ルワカバヤシビル3F TEL. 075-251-1393）

- 講師：田中総一さん（地球の友・金沢）
- 参加費：1,000円

【大阪会場】

- 日時：5月23日（日）14時～17時
- 場所：アジアボランティアセンター（阪急「梅田」駅茶屋町口より徒歩3分、大阪聖パウロ教会4F TEL. 06-6376-3545）
- 講師・参加費は京都会場に同じ。
- ★第3回 “自由貿易と東南アジアの熱帯林～フィリピン、マレーシア、パプア・ニューギニアからの報告”
- 日時：6月26日（土）13時～17時
- 場所：アジアボランティアセンター
- 講師：関 良基さん（京都大学大学院

- 農学研究科）、西岡良夫さん（ウータン・森と生活を考える会）
- 参加費：1,000円
- 問合せ：アジアボランティアセンター（TEL/FAX. 06-6376-3545）

線彩画 中村欣司個展

どこかなつかしいような心象風景を、繊細なタッチで描いた独特な“線彩画”の中村さんの個展が東京で開かれます。黄土高原の風景を、出展作のなかに見つけられるでしょうか？

- 日時：6月7日（月）～12日（土）11時～19時
- 会場：GALLERY OGATA (TEL. 03-3572-4727、東京都中央区銀座7-12 滝山町ビル1F)

神戸学生青年センター・朝鮮史セミナー 『中国の朝鮮族－現状から見た 将来への希望－』

中国全土にはあわせて180万人の朝鮮族が暮らしています。在日韓国・朝鮮人の問題を考える上でもひとつの素材となる中国の朝鮮族について、来日中の金先生にお話をうかがいます。

- 日時：6月19日（土）14時～16時
- 場所：神戸学生青年センター・ホール（阪急「六甲」駅より徒歩3分）
- 講師：金道権氏（北京中央民族大学教授）

- 参加費：1,000円
- 主催・問合せ・申込み：（財）神戸学生青年センター（TEL. 078-851-2760 FAX. 078-821-5878-mail: rokko@po.hyogo-iic.ne.jp）

六甲の小さな音楽会

♪オカリナ・コンサート♪

- 日時：6月26日（土）14時～15時30分
- 場所：神戸学生青年センター・ホール（阪急「六甲」駅より徒歩3分）
- 演奏：鄭光均氏（オカリナ奏者）
- 参加費：1,500円 ●定員：80名
- 主催・問合せ・申込み：（財）神戸学生青年センター（TEL. 078-851-2760 FAX. 078-821-5878-mail: rokko@po.hyogo-iic.ne.jp）

土佐小夏をどうぞ

高知の田中さんから、初夏の味覚のたよりです。

○小夏（低農薬有機栽培）

L・M混 5kg 3,800円

※送料別途。関西630円、関東840円（20kgまで）。

※出荷は5月下旬まで。

●お申し込みは田中隆一さんまで

〒781-7412高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL/FAX. 0887-29-2500

※売上げの一部をGENにご寄付いただきたい
ているので、ご注文の際、「GENの紹介」と一言そえてください。